

令和5年度圏域の事業計画・収支計画

(北部地区)

河西学区

速野学区

中洲学区

守山市地域包括支援センター

地域包括支援センター事業計画書および評価: 北部地区地域包括支援センター

令和5年度基幹からの重点事業および圏域の事業計画				
地域支援事業	包括的支援事業	総合相談支援業務		
基幹からの重点事項	担当地区における地域の相談拠点となるよう広くセンターの周知・啓発を行うとともに、住民に地域の相談窓口として認識してもらえるような取組を進めること。併せて、各学区ごとの高齢者および関係機関等の状況を把握し、円滑なセンター運営のためのネットワーク構築を図ること。また、総合相談フローに基づく緊急度のアセスメントを適切に行い、状況に応じた迅速な対応をめざすこと。			
事業内容	令和5年度 圏域の計画	実施状況（自己評価）※いずれかに○		
		より工夫して できている	できている	工夫が必要
1 地域におけるネットワーク構築	担当地域の民生委員・児童委員、生活支援コーディネーター等関係者や市社会福祉協議会のネットワークの構築と整備を行う。	○		
	インフォーマルサービス等の社会資源を把握し、必要時に情報提供を行う。		○	
2 高齢者の実態把握	安否確認等の通報があった場合は、対象者の情報を収集し、基幹と連携し対応する。	○		
	地域より相談があった場合、基幹型包括と共有した上、ケアマネジャーや民生員と連携し、訪問等により状況把握する。	○		
3 相談窓口機能	相談内容については事業所内で随時共有し、担当者不在であっても速やかに対応できる体制を整える。	○		
	課題整理、方向性を検討した上で適切な機関、制度、サービス等につなげる。また、関係機関との連携を随時行う。	○		
4 専門的な相談支援	困難事例を把握した場合、課題を明確化した上で、対応方法を検討する。また、基幹型包括や関係課職員との連携を積極的に図る。		○	
	3職種に視点より地域の特性や課題および高齢者の実態とニーズを把握する。また、地域に向けて発信する。		○	
圏域の自己評価	事業全体についての総括 新規ケース(288件)のうち、地域からの相談は全体の約2割であった。レベル4の対応ケースについてはR3年度の約2倍となり内訳として虐待対応が多かった。地域の特性や課題についてはR5年度に抽出したことをR6年度地域に向けて発信していく。			
基幹からの評価	重点事業に対する達成状況 ※いずれかに○	コメント		
	より工夫して できている	できている	工夫が必要	地域住民とのネットワークを構築していく中で、多くの相談を受けて対応できている。引き続き、関係機関等と連携を図りながら、地域住民への周知啓発や専門性を活かした支援を期待する。
	○			

地域包括支援センター事業計画書および評価: 北部地区地域包括支援センター

令和5年度基幹からの重点事業および圏域の事業計画				
地域支援事業	包括的支援事業	権利擁護業務		
基幹からの重点事項	住み慣れた地域で高齢者が尊厳ある暮らしができるよう、権利擁護のための諸制度の活用を支援すること。虐待対応について、緊急性を常に意識し、必要に応じて担当課や基幹型と連携するなか、迅速な対応を行い早期の終結をめざすこと。また、地域住民や事業所等に対し、虐待の予防につながる取組を実施すること。			
事業内容	令和5年度 圏域の計画	実施状況（自己評価）※いずれかに○		
		より工夫して できている	できている	工夫が必要
1 高齢者虐待への対応	民生委員・児童委員、地域住民や関係機関、地域の介護支援専門員との連携を図る。高齢者虐待予防にかかる啓発や通報窓口の周知、早期発見につながるよう、出前講座等により発信する。		○	
	通報を受理した時は、虐待支援マニュアルに基づき、基幹型包括と連携し、迅速に対応する。また、必要に応じて高齢者虐待支援ネットワークを活用し、高齢者への支援方法を検討する。	○		
2 成年後見制度等の活用促進	権利擁護事業、成年後見制度など高齢者が適時活用できるように関係機関や地域住民へ無料相談会等の情報提供と制度について周知啓発を図る。		○	
	地域の民生委員・児童委員等に向けて専門機関の協力のもと勉強会を開催し、認知症などにより、判断能力の低下が見られる対象者へ活用支援ができるしくみを作る。		○	
3 消費者被害の防止	高齢者世帯への訪問や出前講座時に、消費者被害防止に向けての周知啓発を行う。	○		
	消費者被害の相談時は、速やかに地域の交番や消費生活相談員との連携を図る。		○	
4 その他	地域におけるひきこもり家族の実態把握に努め、社協と共有し必要な機関へつなげる。		○	
圏域の自己評価	事業全体についての総括			
	虐待対応については、高齢者虐待支援ネットワークの活用により、対応終結に導くことが出来た事例があった。（1件） 成年後見制度・権利擁護事業利用に関するケアマネジャーからの相談があり、関係機関につながることができた。（8件） R6年度は地域に向けて認知症サポーター養成講座の中に権利擁護や後見制度利用に関する内容を組み込み、制度についての周知啓発や情報発信に努めていきたい。			
基幹からの評価	重点事業に対する達成状況 ※いずれかに○		コメント	
	より工夫して できている	できている	工夫が必要	虐待対応や成年後見制度・権利擁護事業利用に関する支援等、対応することができた。引き続き、虐待予防や消費者被害防止等に関する周知啓発を期待する。
		○		

地域包括支援センター事業計画書および評価: 北部地区地域包括支援センター

令和5年度基幹からの重点事業および圏域の事業計画				
地域支援事業	包括的支援事業	包括的・継続的ケアマネジメント支援業務		
基幹からの重点事項	地域の高齢者等が本人の能力を活かしながらその人らしい暮らしを継続でき、課題解決のために社会資源を自己決定により活用できるよう、介護支援専門員の活動を支援すること。地域全体のケアマネジメント力の向上に向け、地域の主任介護支援専門員とともに介護支援専門員の資質および対応力の向上に取り組むこと。			
事業内容	令和5年度 圏域の計画	実施状況（自己評価）※いずれかに○		
		より工夫して できている	できている	工夫が必要
1 包括的・継続的ケアマネジメント支援	困難事例相談時は、介護支援専門員の抱える課題を整理し、支援の方向性を検討した上、後方支援に努める。	○		
	相談事例より考えられる北部圏域の地域課題の抽出を行う。	○		
2 包括的・継続的ケアマネジメントを行うための環境整備	自立支援型ケアマネジメントについて事業所内で勉強会を行い、介護支援専門員からの相談時に対応できる力を身につける。		○	
3 地域におけるネットワーク構築	地域の介護支援専門員と民生委員・児童委員対象の勉強会を年2回開催し、包括を含めた関係づくりと地域づくりについて考える機会を持つ。	○		
	地域における災害時支援について、学区での地域づくりの会議に地域のケアマネに参加を促し課題を共有する。			○
4 その他				
圏域の自己評価	事業全体についての総括			
	年間5回の地域ケア個別会議を開催。担当ケアマネの他、北部圏域内の他事業所の主任ケアマネも同席し、共に地域課題について検討する機会を作った。「地域で支え合う」を考える勉強会は学区ごとに1回ずつ、合計3回開催した。地域における災害時支援をテーマに、それぞれの立場でできることについて活発な話し合いが出来た。			
基幹からの評価	重点事業に対する達成状況 ※いずれかに○		コメント	
			地域ケア個別会議への主任介護支援専門員の参画や、地域で支え合う勉強会等で介護支援専門員と民生委員・児童委員の交流を図る等、地域ネットワークの構築に尽力している。引き続き、ケアマネジメント力の向上に向けての支援を期待する。	
	より工夫して できている	できている	工夫が必要	
○				

地域包括支援センター事業計画書および評価: 北部地区地域包括支援センター

令和5年度基幹からの重点事業および圏域の事業計画				
地域支援事業	包括的支援事業	在宅医療・介護連携推進事業		
基幹からの重点事項	地域住民に対して在宅医療や看取りについての情報を広く周知し、在宅医療・介護連携サポートセンターと連携を図るなか、身近な地域で高齢者や家族等が安心して相談できる体制整備を行うこと。出前講座や各種教室等の機会を活用して、エンディングノートの普及啓発・活用促進を図ること。			
事業内容	令和5年度 圏域の計画	実施状況（自己評価）※いずれかに○ より工夫してできている できている 工夫が必要		
1 在宅医療・介護連携事業の周知・啓発	出前講座時に、在宅療養・看取りについての相談窓口（在宅医療・介護連携サポートセンター）やエンディングノートの普及啓発・活用促進を行う。		○	
2 在宅医療・介護連携に関する相談支援	退院時等において、在宅医療・介護連携サポートセンターとの連携を図り、本人・家族が不安なく療養できる支援体制を整える。			○
3 在宅医療・介護連携推進のための多職種連携	病院と地域包括の勉強会に定期的に参加し、入退院時支援における課題の共有とシームレスな支援ができる体制づくりを検討する。		○	
	地域の訪問看護とケアマネ対象に、つながりとこれからの在宅医療連携を考える機会を作る。		○	
4 その他				
圏域の自己評価	事業全体についての総括 エンディングノートに関する出前講座の希望は1件であり、エンディングノート啓発の必要性を感じた。病院と地域包括との勉強会に参加することで、事例を通してそれぞれの立場で課題を共有することができた。R6年度は在宅医療・介護連携サポートセンターと協働し、病院との連携をどのように考えていくか検討したい。			
基幹からの評価	重点事業に対する達成状況 ※いずれかに○		コメント	
	より工夫してできている	できている	工夫が必要	病院と地域包括支援センターの事例検討会に参加し、関係機関との課題の共有を図れた。今後は、エンディングノートの更なる啓発や、在宅療養における支援体制の構築を期待する。
		○		

地域包括支援センター事業計画書および評価: 北部地区地域包括支援センター

令和5年度基幹からの重点事業および圏域の事業計画				
地域支援事業	包括的支援事業	認知症総合支援事業		
基幹からの重点事項	認知症の人やその介護者等が地域で安心して暮らすことができるよう、認知症に関する正しい知識の普及啓発を図ること。認知症初期集中支援チームとの連携を図り、認知症の早期発見・早期支援に努めること。また、介護者の負担軽減のための取組を進め、行方不明高齢者等SOSネットワーク事前登録制度について周知啓発を行い、行方不明時の早期発見・対応に努めること。			
事業内容	令和5年度 圏域の計画	実施状況（自己評価）※いずれかに○		
		より工夫して できている	できている	工夫が必要
1 認知症に関する正しい知識の普及啓発	北部包括主催の認知症サポーター養成講座を各自治会に案内し開催を促す。認知症の正しい知識の普及啓発を行い、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指す。	○		
	守山市キャラバンメイト、カフェボランティア、認知症サポーター等、活動関係者とのネットワークづくりや情報共有を行う。		○	
2 認知症初期集中支援の推進	相談時には認知症初期集中支援チームを活用することにより、早期介入し、必要な医療や適切なサービスにつなぐ等、重症化の予防に努める。	○		
	行方不明高齢者への早急な訪問活動、関係機関との連携による対応や発見後の支援、行方不明高齢者等SOSネットワーク事前登録申請の推進を行う。		○	
3 認知症の人やその家族への支援	出前講座等において「もの忘れ相談プログラム」の周知啓発を行い、認知症の早期発見・早期治療等の支援や初期集中支援対象者の把握に努める。		○	
	地域の身近な居場所や相談場所として、認知症の人や介護者が集えるように、認知症カフェ「ほっこり庵〜絆」を北公民館にて毎月開催する。	○		
4 その他	高齢者の運転について個別の相談時には、認知症初期集中支援チームや運転免許センターの職員と連携し、必要に応じて専門医受診につなげる。	○		
	チームオレンジの立ち上げ支援を基幹包括と協同して行う。		○	
圏域の自己評価	事業全体についての総括			
	認知症サポーター養成講座は小学校3件、地域4件、北部主催2件開催した。北部主催の養成講座では祝日に開催し、若い参加者の募集を試みた。また外部講師を招きこれまでと違った講座を行った。オレンジカフェは高齢者の居場所として定着している。R6年度は介護者の相談場所として活用していただける場も検討していきたい。			
基幹からの評価	重点事業に対する達成状況 ※いずれかに○		コメント	
	より工夫して できている	できている	工夫が必要	認知症サポーター養成講座や、オレンジカフェを開催し、認知症に関する啓発や、居場所づくりを行うことができた。今後は、チームオレンジの立ち上げ支援等、認知症の人やその介護者等が地域で安心して暮らすことができる地域づくりの更なる推進を期待する。
	○			

地域包括支援センター事業計画書および評価: 北部地区地域包括支援センター

令和5年度基幹からの重点事業および圏域の事業計画				
地域支援事業	包括的支援事業	地域ケア会議推進事業		
基幹からの重点事項	地域ケア個別会議を開催し、課題の抽出を行うなか、担当地区の実情に応じた取組、資源開発、政策提言等に努めること。			
事業内容	令和5年度 圏域の計画	実施状況（自己評価）※いずれかに○		
		より工夫して できている	できている	工夫が必要
1 地域ケア会議の開催	北部包括に相談があった事例を基に、地域の問題点や課題を整理し、基幹包括主催の地域ケア個別会議にあげることで地域課題の解決方法を検討する。	○		
	北部包括主催の地域ケア個別会議を年2回以上開催し、事例の個別課題と北部圏域における地域課題を整理する。	○		
2 資源開発および政策提言	地域ケア個別会議の事例を基に、関係機関と共に社会資源と地域づくりについて検討する。	○		
	学区ごとの地域づくりの会議に参加し、地域における取組を知り、地域住民主体の活動の推進を支援する。		○	
3 その他				
圏域の自己評価	事業全体についての総括 北部包括主催の処遇改善型地域ケア個別会議を年5回、各地域で開催し、圏域における地域課題の傾向を抽出した。また北部地区内の主任介護支援専門員にも参加いただき地域課題の抽出の協力を得る事ができた。(3回)R6年度も継続して開催予定。			
基幹からの評価	重点事業に対する達成状況 ※いずれかに○	コメント		
	より工夫して できている	できている	工夫が必要	地域の主任介護支援専門員の参画も仰ぎ、地域課題について検討することができた。今後は、地域での解決に向けた方策の検討等、地域の実情に応じた前向きな取り組みや資源開発を期待する。
	○			

地域包括支援センター事業計画書および評価: 北部地区地域包括支援センター

令和5年度基幹からの重点事業および圏域の事業計画				
地域支援事業	包括的支援事業	家族介護支援事業		
基幹からの重点事項	家族介護者等への支援のため、家族介護者教室等の事業を実施すること。対象者や内容の選定等について、担当地区の地域特性に応じて検討し、多くの住民の参加を促すこと。また、認知症家族介護者訪問等を活用し、介護の実態把握を行い、介護者負担の軽減および虐待防止の取組につなげること。			
事業内容	令和5年度 圏域の計画	実施状況（自己評価）※いずれかに○		
		より工夫して できている	できている	工夫が必要
1 家族介護者支援事業	家族介護者教室を北公民館にて年1回開催し、介護に対する知識の普及啓発や介護者自身の精神的な負担軽減を図る。	○		
	男性介護者の介護による孤立や精神的な負担の軽減を図れるよう、家族介護者教室や男性介護者の集い等交流の場の紹介や個別の相談支援を行う。		○	
2 家族介護者訪問	認知症介護をしている家族に対し、訪問等により健康状態や、介護負担についての状況を把握する。また、介護支援専門員と連携し家族の介護負担の軽減を図る。		○	
	虐待防止の視点より、支援が必要な介護者に対して、介護支援専門員や民生委員・児童委員などの関係者と連携し、継続した支援を行う。		○	
3 その他				
圏域の自己評価	事業全体についての総括 家族介護者教室は4回開催し延べ103名、実人数43名で北部圏域以外の方も多く参加された。アンケートの結果からも概ね好評化を得られていることが分かった。家族介護者訪問は自宅訪問と電話訪問を合わせ39件、介護支援専門員と連携を図りながら実施し、実態把握を行った。			
基幹からの評価	重点事業に対する達成状況 ※いずれかに○	コメント		
	より工夫して できている	できている	工夫が必要	家族介護者教室や家族介護者訪問を通して、啓発や介護者の負担軽減を図ることができた。今後は、更に地域特性を活かした事業の展開を期待する。
		○		

地域包括支援センター事業計画書および評価: 北部地区地域包括支援センター

令和5年度基幹からの重点事業および圏域の事業計画				
地域支援事業	包括的支援事業	介護予防ケアマネジメント		
基幹からの重点事項	高齢者のフレイル(虚弱)予防のための取組を進め、自費サービス、サービス未導入者などについて、フォーマル、インフォーマルサービスの活用促進を検討し、地域において自立した生活を送ることができるよう支援すること。			
事業内容	令和5年度 圏域の計画	実施状況(自己評価) ※いずれかに○		
		より工夫して できている	できている	工夫が必要
1 自立支援・重度化防止等への取組	北部地区の高齢者の現状を把握し、地域のリハビリ専門職と協同し、フレイル予防を目的とした自立支援や重度化防止について周知啓発を行う。	○		
	高齢者が自立した生活を送れるよう、地域における体操や活動の場の情報提供を行い、利用促進を支援する。	○		
2 自費サービス利用者、サービス未導入者等への支援	介護予防教室等の参加者に対し、フレイル予防に向けてアセスメントし、ADLやIADLの改善に向けた必要な運動器の機能向上支援(インフォーマルサービス)につなげる。		○	
3 介護予防ケアマネジメント委託における事業所選定における事業所選定の公平性・中立性の確保	介護予防ケアマネジメント委託における事業所選定において、公平・中立性の確保を行うために、選定の理由を含め、基幹包括支援センターへ年1回報告を行う。	○		
4 その他				
圏域の自己評価	事業全体についての総括			
	今年度は地域の理学療法士に依頼し、百歳体操の効果を教えて貰う機会を作った。参加者は百歳体操経験者が多く継続的な運動が出来る場につなぎ、2/3の方が参加された。また、基本チェックリストから口腔と認知面が注意が必要であった方が多く、口腔とコグニサイズの講座を行った。			
基幹からの評価	重点事業に対する達成状況 ※いずれかに○	コメント		
	より工夫して できている	できている	工夫が必要	高齢者を地域のインフォーマルな取り組み繋ぎ、自立支援の一助となる支援ができた。今後も高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を送るための支援を期待する。
	○			

地域包括支援センター事業計画書および評価: 北部地区地域包括支援センター

令和5年度基幹からの重点事業および圏域の事業計画				
地域支援事業	包括的支援事業	一般介護予防事業		
基幹からの重点事項	地域の介護予防活動について状況把握を行い、住民が自ら参加できるように支援を行うこと。高齢者サロンや自治会の行事等、あらゆる機会を利用して介護予防の必要性や取組について啓発を行うとともに、身近な地域における住民主体の継続的な取組を支援すること。			
事業内容	令和5年度 圏域の計画	実施状況（自己評価）※いずれかに○		
		より工夫して できている	できている	工夫が必要
1 介護予防把握事業	地域に向けて介護予防（運動・口腔・栄養）の出前講座を行い、地域全体の介護予防の意識向上を図る。	○		
2 介護予防普及啓発事業	男性高齢者の閉じこもり予防と介護予防の推進を図る。		○	
3 地域介護予防活動支援事業	北公民館を拠点とした介護予防教室を実施し、各地域の中で活動の輪が広がるように支援する。また、参加者のフォローアップ（訪問や声掛け）に努める。	○		
	北公民館等において、アクティブシニアに向けた居場所・介護予防活動の拠点となるような仕掛けづくりを検討する。		○	
4 その他	サロンや出前講座等でもりやまプラス体操や介護予防手帳の活用について紹介し、住民が自主的に自宅でできる介護予防の取り組みを推進する。	○		
	地域の居場所や集いの場において、新型コロナ等感染拡大防止のための基本的な対策の意識付けを行う。	○		
圏域の自己評価	事業全体についての総括			
	出前講座の内容として介護予防に関する講座依頼が4割であった。介護予防教室は、百歳体操に焦点をあてたのもあり、参加者が、既存グループに在籍している方が多かった。19名の参加者のうち男性は3名の参加であった。R6年度は男性高齢者が自ら参加できるような企画と仕組みづくりを検討する。			
基幹からの評価	重点事業に対する達成状況 ※いずれかに○	コメント		
	より工夫して できている	できている	工夫が必要	出前講座や介護予防教室にて、介護予防の周知啓発に取り組むことができた。今後は、男性高齢者も含めた新規の参加者等に取り組んでもらえるような取り組みを期待する。
	○			

(様式 4)

令和 6 年 4 月 10 日

守山市基幹型地域包括支援センターあて

居宅介護支援事業所の選定支援にかかる自己評価表

事業所名 守山市北部地区地域包括支援センター

令和 6 年 3 月末現在

1 利用者が決定した事業所等件数 (令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月)

居宅介護支援事業所	件数	主な決定理由
あいむケアプランセンター	5	要介護者の空き情報より (4)、同法人のサ高住利用予定 (1)
ケアプランセンターあやめの里	5	市内事業所受け入れ不可のため空き情報より依頼 (5)
エスト居宅介護支援事業所	2	他市に転居されるので転居先の包括に紹介を受けて (2)
おうみの里ほたる	2	小多機希望 (2)
居宅介護支援事業所からん	4	市内事業所受け入れ不可のため空き情報より依頼 (4)
ケアプランセンター向日葵野洲	2	市内事業所受け入れ不可のため空き情報より依頼 (2)
小西醫院居宅介護支援事業所	7	小西医師が主治医 (2)、以前の勤務先だった (1)、家族の希望 (2)、夫婦での受け入れ可能 (2)
居宅介護支援事業所しがそせい苑	8	男性 CM 希望 (1) 要支援受け入れ可能 (1) 空き情報より (4) 本人家族の希望 (2)
しみんふくし滋賀野洲居宅介護支援事業所	4	市内事業所受け入れ不可のため空き情報より依頼 (4)
守山市社会福祉協議会居宅介護支援事業所	2	空き情報より (1) 在サポの提案 (1)
くらしサポート華	1	急ぎでなければ受けてくださるという情報より (1)
びわこメディカル居宅介護支援事業所	1	困難ケースのため依頼 (1)
居宅介護支援事業所ふじ	5	市内事業所受け入れ不可のため空き情報より依頼 (5)
居宅介護支援事業所ふくろうさん	2	整骨院利用のため (2)
ケアプランセンターぼこ野洲	3	空き情報より (2)、家族の希望に合う事業所 (1)
またあした居宅介護支援事業所	11	空き情報より (9)、緊急のため無理を聞いてもらった (2)
三宅ケアセンター	3	空き情報より (3)

ゆいの里守山居宅介護支援事業所	12	デイを利用している同法人（ケアマネ交代希望）（2）、過去に家族が利用（2）、家族の強い希望（2）、過去に出前講座を受けた（1）、デイサービス併設希望（1）、緊急対応できる事業所（1）、空き情報より（3）
ゆうすげ介護居宅介護支援事業所	4	空き情報より（4）
ゆうらいふ居宅介護支援事業所	11	過去に家族が利用（1）近くの事業所希望（2）知名度があり本人希望（2）空き情報より（6）

〈令和 6 年 3 月現在調整件数 94 件〉

2 居宅介護支援事業所の情報提供方法や決定の支援について偏りがないか。

（いずれか一つに○）

- ☒ A 公正・中立である
☐ B ほぼ公正・中立である
☐ C 公正・中立に欠けている

〈全体評価〉

全 94 件中 24 件は利用者希望、または利用者の要望より調整を行った。（利用者希望の 24 件のうち 8 件は利用者の希望で同法人居宅事業所を選択された。）
 情報提供により調整を行った 70 件は主に空き情報より情報提供を行い、圏域センターが調整をした。空き情報による同法人内の居宅介護支援事業所の選定は 4 件であり、公正・中立といえる。

(様式4)

令和5年度収支計算書および収支決算書
守山市（北部地区）地域包括支援センター

(単位：千円)

区分	項目		R5 予算額		R5 決算額		R4 決算額		増減	
			金額	積算根拠	金額	決算の説明	金額	決算の説明	R5-R4	
収入	委託料	市地域包括支援センター委託料	29,150		29,150		29,150		0	
	その他収入		0		0		0		0	
	収入合計（a）		29,150		29,150		29,150		0	
支出	人件費	正規職員	22,881	職員4名、給与、賞与、社保、退職共済含	25,734	給与、社保、退職共済含、退職金	25,677	給与、社保、退職共済含、退職金	57	
		臨時職員	3,425	職員1名、給与、賞与、社保、退職共済含	2,631	賞与・社保追加	472	賞与・社保追加	2,159	
	事務費	報償費	10	外部講師謝礼 福祉用具講習借入謝礼等	0		0		0	
		旅費	82	外部研修参加費・旅費	77	内部・外部研修参加費、旅費	86	内部・外部研修参加費、旅費	-9	
		消耗品費	600	事務用品、複写機使用料、職員制服、日用品等	217	事務用品、複写機使用料（保守）、日用品、等	277	事務用品、複写機使用料（保守）、日用品、等	-60	
		燃料費	270	車両燃料費	123	車両燃料費	186	車両燃料費	-63	
		印刷製本費	96	配布資料等	122	名刺、求人関係、等	83	名刺、求人関係、等	39	
		医薬材料費	60	コロナ関連等（消毒液、マスク等）	0	消毒液等（コロナ感染対策）	55	消毒液等（コロナ感染対策）	-55	
		通信運搬費	456	電話・有線使用料、携帯電話使用料、光回線接続料	455	電話・有線使用料、携帯電話使用料、光回線接続料、切手、等	490	電話・有線使用料、携帯電話使用料、光回線接続料、切手、等	-35	
		保険料	107	車両保険料、施設賠償保険料	103	車両保険料、施設賠償保険	100	車両保険料、施設賠償保険	3	
		使用料および賃借料	679	車両賃借料、事務機器賃借料	912	駐車場、車両賃借料、事務機器賃借料、Zoom、等	908	駐車場、車両賃借料、事務機器賃借料、Zoom、等	4	
		委託料	280	コピー機・PC関係等保守料、振込手数料等	208	経営、会計、社労士事務所顧問契約、通信機器保守料・職員健康診断・予防接種・PCセキュリティ、サーバー保守、等	216	経営、会計、社労士事務所顧問契約、通信機器保守料・職員健康診断・予防接種・PCセキュリティ、サーバー保守、等	-8	
		備品購入費	28	事務用備品等	0		0		0	
		修繕費	27	車両・OA機器等修繕	0		194	ビジネスフォン修理代	-194	
									0	
		その他雑費	149	茶葉代・他諸経費	218	諸会費、茶葉代・健診費、ワクチン接種、水等	253	諸会費、茶葉代・健診費、ワクチン接種、水等	-35	
	支出合計（b）		29,150		30,800		28,997		1,803	
	収支差（a）-（b）			0		-1,650		153		-1,803

※この表は、毎年4月1日～翌年3月31日及び収支決算を記載して下さい。